

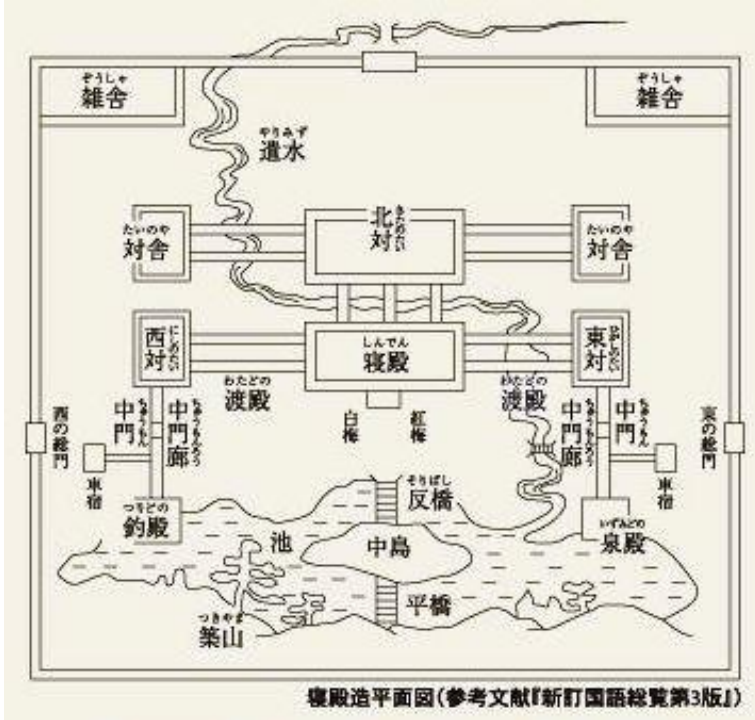
日本史(26)「国風文化② 国風美術・貴族の生活」

○今回のポイント

貴族社会の成熟を反映し浄土教を背景とする美術が発達。
生活の中にも宗教や信仰が受容されていった。

(1) 貴族の住宅

①寝殿造…[1. 白木造] (木地のままの材で造る)・[2. 檜皮葺] (ヒノキの樹皮で屋根葺き)



☆[3. 寝殿造]の特徴☆

四足門のつく築地塀で囲まれた方1町の数地を基準とし、神殿を中心に北の対、東西の対、釣殿、泉殿があって、透渡殿や廊で接続する。寝殿の南側には池を掘り、築山を設け、中島を作り、池水は寝殿の東から遣水で引いた。

- 畳・円座を敷いて座る。
- 襖(フスマ)・屏風で仕切る。
- ・[4. 唐絵]…中国の故事や風景を描く
- ・[5. 大和絵]…日本の風物を題材とし、なだらかな線と上品な彩色とを持つ。
- ・初期の大和絵の画家[6. 巨勢金岡]が知られる。

(2) 調度品の技巧

- ①[7. 蒔絵]…漆で文様を描き、それに金・銀などの金属粉を蒔き付けて模様とする漆器の技法。
 - ②[8. 螺鈿]…貝殻の真珠光の部分の薄く剥いで磨き、種々の形に切って漆器に埋め込技法。
- ・材料は奄美大島や喜界島などの南島でとれる[9. 夜光貝]や[10. 芋貝]



[11. 片輪車螺鈿蒔絵手箱]
(カタワグルマ-ラデン-マキエ-テバコ)

③書道

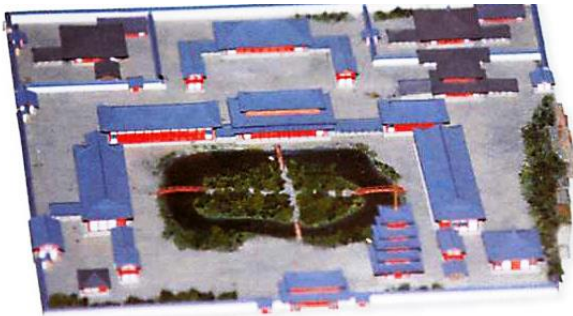

- ・[12. 和様]…前代の唐風の書に対し、優美な線を表わす。
- ・[13. 三蹟]…小野道風(オノノミチカゼ)、藤原佐理(フジワラノスクマサ)、藤原行成(フジワラノユキナリ)

小野道風『14. <u>屏風土台</u> 』	藤原佐理『15. <u>離洛帖</u> 』	藤原行成『16. <u>白氏詩卷</u> 』

(3)浄土教と美術

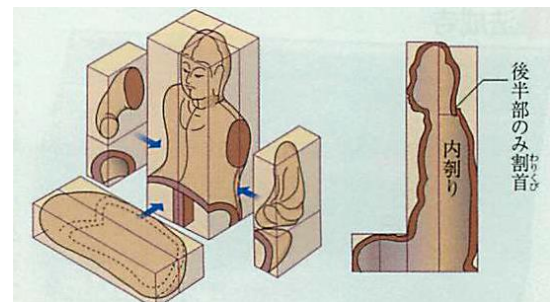
☆浄土教の流行により、浄土教関係の建築・美術作品が多く作られる。

①[17. 阿彌陀堂]…阿彌陀仏を安置するための堂。

藤原道長「18. <u>法成寺</u> 」(復元模型)	藤原頼通「19. <u>平等院鳳凰堂</u> 」
	

②[20. 定朝]…平安中期の仏師。寄木造の手法を用い、定朝様と呼ばれる優美な和様を完成した。

・[21. 寄木造]…平安中期以降の仏像彫刻法。2材以上の材を寄せ合わせ、多くの工人で部分を製作し、全体をまとめる技法。一木造に対する。末法思想を背景とする仏像の大量需要に応えた。



③[22. 来迎図]…往生しようとする人を迎えるために仏が来臨する場面を示した図。

【貴族の生活】

(1)衣服

①男性…貴族の[23. 束帯・衣冠]。通常服は[24. 直衣・狩衣]。庶民男性は水干。

②女性…唐衣や裳をつけた[25. 女房装束](十二単)。通常服は[26. 小袿](コウキ)に袴。

(2)食事

○比較的簡素。獣肉は用いられず。調理に油は使わない。食事は日に2回を基準。

(3)生活

①成人…10～15歳で男性は元服、女性は[27. 裳着]の式をあげる。男性は官職を得て朝廷に仕える。

②貴族の多くは[28. 左京]に住む。摂関家などは京中に大邸宅。大和の[29. 長谷寺]などの寺社に参詣する以外は、京を離れて旅行をするのはまれ。

(4)[30. 年中行事]

・朝廷で毎年同じ時期に行われる儀式。大祓・加茂祭のような神事、灌仏(4月8日の釈尊の誕生日に香水をかける儀式)などの仏事、七夕・相撲などの遊興、叙位・除目(官吏の任命)などの政務に関わることなど。

(5)現世の失望と来世

①[31. 陰陽五行説]と[32. 陰陽道]…天体现象や暦法など全て吉凶に関連するものとして解釈。

・[33. 物忌]…物の怪につかれたとして一定期間特定の建物の中で謹慎すること。

・[34. 方違]…行くべき方角に悪神がいる場合、前夜に吉方の家に一泊し方角を変えてから行く事。

②来世的思考

・現世の富貴栄達が得られないと失望し、来世を頼みに[35. 浄土教]を信仰するようになった。